

TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI

SANMEI Team TARO PLUSONE

2024

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

SUPERBIKE RACE in SUGO

2024 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦

■ 宮城県
■ スポーツランドSUGO
■ 1周 = 3.6211km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 #12 関口 太郎

RACE 1

5月25日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ

予選 14番手 (タイム: 1分27秒983)

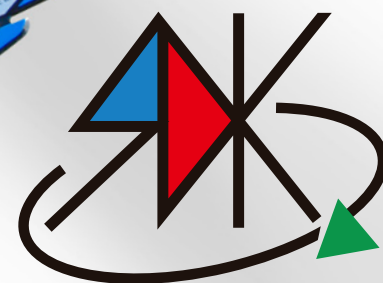
決勝 12位

RACE 2

5月26日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ

予選 13番手 (タイム: 1分28秒397)

決勝 12位



三明電気工事



Fujimoto Electric Industry
藤本電機工業



萬福



KAWAFUL
TECHNO



Motorcycle CS2



苦渋の決断で事前テストをキャンセル ベストを尽くしたSUGOラウンド

シリーズ第3戦を迎えた全日本ロードレース選手権。舞台は宮城県・スポーツランドSUGO。1周約3.6kmのテクニカルでアップダウンのあるサーキットだ。第2戦もてぎでは、鈴鹿での負傷もあったため、事前テストをキャンセルしたが、今回も事前テストには参加せずレースウィークに、ぶっつけで挑むことになっていた。鈴鹿で負ったケガは、ほぼ癒えていたが金銭的な問題があるための苦渋の決断だった。

前戦のもてぎは、木曜から走行があったが今回は金曜から。マシンセットは、昨年と同様の状態で走り始める。いつも通り走り込んでいき、昨年のセットに合わせた走りを見つけながら集中して周回を重ねた。タイムは1本目に1分29秒610、2本目に1分28秒578をマークし初日は16番手につけた。事前テストを行っているライバルは速かったが、関口も着実に前進していた。



土曜日の公式予選も継続してマシンに合わせたライディングを模索しながら、決勝を見据えてニュータイヤを早めに履き、周回を重ねている中で1分27秒台に入れることができ調子は上々だった。グリッドはレース1は14番手、レース2は13番手につけた。

13:10にスタートしたJSB1000クラスのレース1。好スタートを切った関口は、11番手でオープニングラップを終えるとレース序盤は、単独走行となっていく。ラップタイムはコンスタントに1分28秒台で周回。レース終盤にペースを上げて来た1台が前に出ていき、関口は22周を走り切り12位でチェッカーフラッグを受けた。

日曜日にも快晴となり絶好の観戦日和となった。朝のウォームアップ走行ではユーズドタイヤでフィーリングを確認し、レース2に挑んだ。

レース2でも、まずまずのスタートを切った関口は、序盤は児玉選手とのバトルを繰り広げる。2周目には1分28秒040を記録すると、4周目にはベストラップとなる1分27秒866を記録。5周目にも1分27秒875をマークし、予選タイムを上回るペースで周回。レース折り返しを過ぎた13周目のシケインで児玉選手をかわし11番手に浮上するが、16周目に1台にかわされ12位でゴール。両レースとも4ポイントを獲得。計8ポイントを積み重ねたSUGOラウンドとなった。



事前テストに参加していない状態にしては、最大限の結果だったと思います。あらためてBMW M1000RRのポテンシャルの高さを感じました。マシンセットは、昨年の状態から、イニシャル1mm変更しただけで、ほぼ、そのままでしたから。レース1では、ほとんど1分28秒台で周回でき、レース2では、1分27秒台にも入れることができたのでレース内容はよかったです。ただ、事前テストを走らなかったのも、22周というレース周回を走るのは疲労感がありました。この後は、鈴鹿8耐になるので、しっかり準備してレースウィークを迎えられるようにしたいですね。今回も多くの応援ありがとうございました。

関口 太郎

